

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2014年
4月7日(月)
第109号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

世田谷・「私立・公立の認可保育園の増設」 5月区議会に向けて請願署名運動

全園門前宣伝、全戸配布、新聞折り込み、駅頭宣伝

世田谷区の待機児童数は依然多く、認可保育園の入所を希望する 5363 名のうち、入れなかった児童数は 3216 名でした。区では昨年度も、社会福祉法人立の認可保育園整備に取り組みましたが、今年 4 月に開所予定であった私立認可保育園 3 園が、資材不足・建設業界の人手不足により、開所時期が延期となり、プレハブ施設での新生活スタートを余儀なくされています。保護者からは「入園できず、仕事を辞めたら生活ができない」「こんな状況なら 2 人目なんて産めない」などの切実な声があがっています。

それでも多くの保護者・保育士は、区が、保育の質の維持を大事にしながら待機児解消対策を行っていることに、信頼と誇りを感じています。新制度施行とともに保育園から、区の保育実施義務のない認定こども園への移行が進められる危険性があります。区への信頼と誇りを失わないためにも、新制度施行後も保育を区の責任で行い、子どもを安心して預けることのできる私立・公立の認可保育園を増設してほしいと求めることが重要になってくると考えました。その方法として、今年も昨年同様、5 月の区議会に向けて陳情署名を集めることにし、活動しているところです。組合員は 1 人 20 筆集めることを目標とし、区内の全保育施設、父母会宛てに送ります。また、駅頭宣伝を 3 月には 7 駅 (1614 筆集まりました) で、4 月には 6 駅で行います。加えて、区職労の力強い応援で署名ハガキ付きチラシを作ることができました。区内の公立保育園 50 園で門前宣伝 (各園 60 枚)、全戸配布 (各園 600 枚) を行い、新聞折り込みもします (毎日・朝日・読売・日経・東京)

3 月に駅頭宣伝を行ったときの街の人たちの反応は良好で、今まで関心の薄かった若い夫婦や単身の男女が進んで署名をしに来てくれたり、「郵便局の裏に空いている土地があるから、保育園をたてた方がよい」というアドバイスをくださる方がいたりと協力的な人たちが増えているという印象を受けています。また、駅頭宣伝に参加している組合員も、明るく元気で、踏切で電車の通過待ちをしている人にもぐいぐい声をかけるなど積極的な人もいました。待機児童や民営化など厳しいことは多々ありますが、保護者や私立の職員と一緒に街に出て声をあげることで元気が出るし、また、何より街の人たちの反応が良いことで、区民と願いを共にしていると感じられてうれしくなり、さらなるやる気につながるのでしょうか。これからも、保護者や私立・保育室の職員と手をつなぎながら、地道にコツコツと運動を広げて盛り上げていきたいと思えます。

板橋区職労保育園分会

職員配置交渉、年代別学習会、門前宣伝取り組み

① 制度・基準を守っての新年度の職員配置

保育サービス課との交渉・要請行動で、制度・基準を守って職員配置をすることを確認して、4 月のスタートを迎えます。しかし、定数を超える要支援児の入所もあり、育休代替が年度途中から

正規が不足することになるため、正規の採用を求める寄せ書きに取り組み、4月に交渉予定です。

② 組合を身近なものに——要求を運動に

年代別学習会（20～30歳代、40～50歳代）を2月から3月にかけて実施。これまで運動で作ってきた制度・基準の話や「保育」の話を通して、日頃の思いを出し合い、保育労働者として元気に楽しく働けるように年代ごとにテーマを出しあいながら、いま進めているところです。このような集まりの中で、組合を身近なものに感じられ、運動の輪を大きくしていきたいと思います。

③ 保育園門前ビラ配布——保育を守る

子ども・保護者にしわ寄せを押しつける板橋の保育政策を知らせるために門前ビラ配布を計画。自分の園では配布できない困難もありますが、保育を守るために、新制度の問題点など他分会、地域と一緒に宣伝活動を予定しています。

【傘下の 組織や保育関係者に配信・配布してください。】